

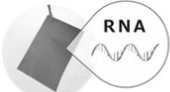
協働プロジェクトで皮脂RNAモニタリング技術の実用化へ

花王

花王は、Preferred Networks (PFN)と皮脂RNA(リポ核酸)

モニタリング技術の実用化に向けた協働プロジェクト「Kao x PFN 皮脂RNAプロジェクト」を開始する。あぶらとりフィルムで皮脂を採取するという「体に負担の少ない試験」でありながら、肌内部の状態を詳細に把握することが可能になるといい、そこに最先端の機械学習を取り入れることで、現在はもちろん将来の肌状態までも見据えた高度な美容力ウensenセリングサービスの提供を目指す。

同プロジェクトでは、第一弾として、皮脂RNAが皮脂RNAモニタリング技術で一人あたりに機械学習・深層学習(ディープラーニング)な



・個人の皮脂RNA発現情報  
・皮膚科学的計測データ  
・血液成分などの健康情報

・AI技術による予測モデル  
(機械学習・深層学習など)

にコミットすることで、肌状態の改善・予防への道も拓ける。まずは2020年から一部機能のテスト運用を開始し、顧客の要望も踏まえながら精度の向上と改良を進めていく。

化粧品研究振興財団

法人名称を変更

2020年度より化粧品研究領域初の大学講座研究助成を開始

コーセーでは、創業者である小林孝三郎氏が1990年に設立し、化粧品学への研究助成事業を通じて広く社会に貢献してきた公益財団法人化粧品研究振興財団(小林保清理事長「現コーセー名誉会長」)の法人名称を2019年11月に「公益財団法人コーセー化粧品研究財団」に変更した。財団とコーセーの関係性を示すことで、財団が公益目的事業を行う際に、コーセーの事業と一体感をもって広く社会に認知されることを目指す。

記者の窓

分を含め、本部・加盟店の力関係も変わっていく。

これまで小売業が新しいステージに移行するには、数十年を要し

質的变化が求められる

た。

コンビニ業界は激動の1年だった。セブンイレブンオーナーの巧みなマスコミ活用によって年中無休・24時間営業のビジネスモデルが崩壊し、生産・物流を含め、サプライチェーン全体が変革を迫られている。さらに、食品廃棄の問題でファストフードの見切り販売が許容され、収益配

小売の主役が百貨店から量販店に移行する際、経済成長と同時に流通構造の変革による価格の決定権が決め手と

化によって、各種専門店、コンビニ、ドラッグストアが台頭した。いまもセブンイレブンが小売業No.1の座にあることに変わりはない。

業態も、現行の企業が将来的に売上・利益を伸ばし続けることはあり得ない。再編・統合の中で、質的变化が求められる。(F)

ないが、働き方改革、フードロスの問題等で、岐路に立たされている。

だが、コンビニに代わる高収益の業態が誕生する見通しはない。

小売業にとってもっと深刻なのは、マーケットの縮小である。どの

業態も、現行の企業が将来的に売上・利益を伸ばし続けることはあり得ない。再編・統合の中で、質的变化が求められる。(F)

公益財団法人 コーセー化粧品研究財団  
KOSÉ COSMETOLOGY RESEARCH FOUNDATION

おいて期待される社会的要請が高い重要なテーマに果敢に挑戦し、次世代を担う高度な人材の育成に取り組む優れた大学講座等に対して助成を行う。応募受付は2020年1月より開始する。財団では、これまで約30年にわたる活動(1990〜2019年度)において、785件(内訳は化粧品研究助成累計721件、国際交流助成累計50件、学術集会支援助成累計14件)、総額8億4034万円の研究助成を行ってきた。

同財団は、2020年の設立30周年を記念した特別研究助成事業として、化粧品研究領域では初となる「大学講座研究助成」を実施する。化粧品研究助成を行ってきた。